

2024_0202「オリオン大星雲（写真）」日々の理科 3466号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

私が学生時代に天体写真を撮始めた頃は、ポジフィルムを一眼レフカメラに入れて撮影しました。撮影前に「赤道儀」の設定が必要でした。赤道儀というのは、恒星の日周運動を自動的に追尾する装置です。赤道儀の設定には付属している「極軸望遠鏡」に北極星を導入し、日付と時刻から北極星の位置と極軸望遠鏡の目盛りを正確に合わせる必要があり、かなり時間がかかりました。1枚の星雲の写真に1時間以上の露光が必要で、一晩で撮れる写真は10枚も厳しかったと思います。その後現像に出し、数日後にやっと撮影成果がわかる・・・それが普通でした。

しかし今の天体望遠鏡（正確には天体写真儀）は実に進化しています。最近試した「Seestar（シースター）」という機種の場合、本体を専用三脚に設置して平らな場所に置きスイッチをON、あとはi-Padから撮影指示を出すだけです。極軸の設定は無し、目的の天体の導入も自動なのです。専用アプリから、撮影したい星雲や星団を選ぶと、ものの1分程度で正確に導入してくれます。

写真はこの機器で撮影した「オリオン大星雲（M42）」です。真っ暗な農道に機器を置き、車の中からi-Padで操作しました。「天体写真を撮っている」という感覚は全くありませんでした。たった1分で撮影完了、実に驚くべき性能です。

(2024年2月上旬／北軽井沢)

